

点滴・予防 クリニック院長新聞

福岡市博多区
博多駅前
3丁目3-12
第6号 1377 #7F
Tel 092-292-6639

【特集号】
脱水

熱中症について

福岡県のデータから読み取れること

国立環境研究所報告

H28年度の国立環境研究所の報告によると、福岡県の熱中症患者による救急搬送は6月頃から出動件数が増加しています。

福岡県の過去10年のデータでは7月中旬より、10人↓150人/月と一気に増加し、7月で最も多く搬送され、全体の44%を占めています。

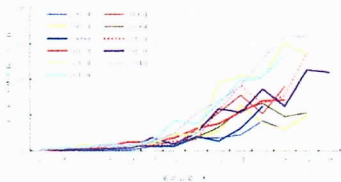


図1 31℃を過ぎると急激に熱中症が出現している。

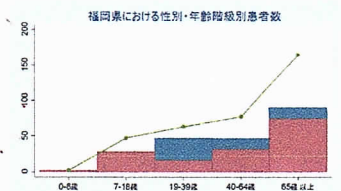


図2 年齢の増加に伴って、熱中症の救急搬送数が増加

熱中症の出動件数には「気温」が関係し(図1)、31℃を超えると増加傾向となります。さらに、「急に暑くなった日」は救急搬送者数が著明に増加します。これは、「環境(気温)の変化」に対して、体調が追い付けないため、熱中症になりやすくなる」と説明されます。

年代別(図2)に見ると、年代の上昇に伴い、有意に増加していること

が分かります。

小学生〜高校生の時期は、運動会の練習や部活の練習による熱中症が主な原因です。今年5月11日のニュースでは、すでに関東地方の小学生19名が医療機関に救急搬送(屋外の運動会の練習)されています。

高齢者の脱水の原因は「気づかない」ことです。年齢に伴い喉の渇きを自覚しにくくなるため、高度な脱水状態で搬送されます。

喉の渇きが無くても、こまめな水分の補給は大事です。水以外にも、ナトリウムなどの電解質が入ったスポーツドリンクや塩飴を取ることが大事です。

当院でできる治療

【内服】

当院での熱中症に対する治療は2つあります。1つは内服での治療、2つ目は点滴による予防があります。

漢方医療では、熱中症を中暑(チュウショ)と言います。この『中』は、食中毒の中と同じで、暑さの中(アタ)った疾患という「暑気あたり」を意味します。

具体的な漢方薬の例として、緊急性がない口渴、頭痛を軽減する主な漢方処方「白虎加人参湯(ピヤッコカニンジントウ)」を用い、夏ばての倦怠感に清暑益気湯(セイショエツキトウ)などあり、問診時の症状に合わせて処方します。

【点滴療法】

点滴療法は、自費診療になりますが、標準・強力点2種類の点滴をご用意しています。

2つの予防治療の共通している点は、「注射」

熱中症を改善させ、さらに脱水や熱中症になりにくいように強化していきます。

脱水・熱中症の症状の改善は、体に熱がこもっている感じがする、まったく尿意がないなどの脱水の程度が強い場合は、オプシジョンになります。追加の点滴(500ml)もご用意しています。



院長 コラム

今回の特集で、脱水・熱中症による対策は十分に理解していただけたと思います。もう少し、視点を変えてお話をします。

最近、テレビや新聞によくありますように、「寝る前にコップ一杯のお水を摂りましょう」とか、「起きたらまず、冷たいお水を摂りましょう」と

いう言葉を聞いたことがありませんか？実は、脱水と脳梗塞・心筋梗塞には、深い関係があるので

高脂血症や糖尿病の生活習慣病の患者さんは、血液の中の脂肪が多い「ドロドロ血」や、高血糖の「ベトベト血」といった血液になりやすい(またはなっている)状態です。脱水状態では、こうした血液をさらに濃縮させ、脳梗塞や心筋梗塞を引き起こしやすくなります。

脳梗塞の前兆として、体の片側の手足に力が入らない、重いめまい、ろれつが回らない、言葉が出てこない、物が二重に見えるなどの症状が現れます。これらは「一過性脳虚血性発作」と呼ばれ、小さな血栓が一時的に血管を詰まらせて起きる症状でとても危険な状態です。

この段階で脳梗塞を疑い、一刻も早く入院施設がある大きな医療機関を受診し検査してもらったことが重要です。脱水にならないように気を付けましょう。